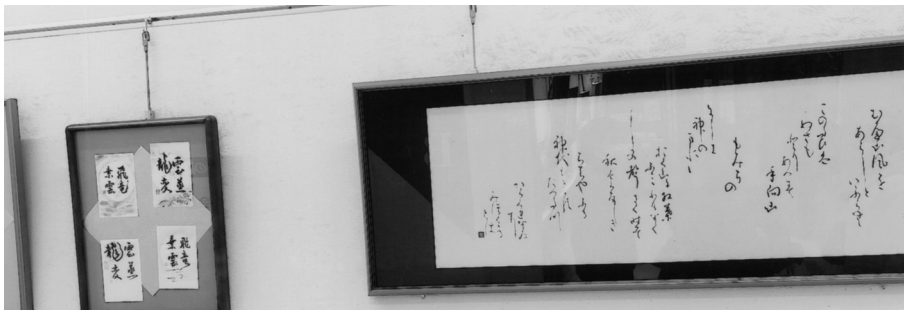
書塾の仲間たち

第 262 回

平塚教室（神奈川県平塚市）



●書塾からひとこと●

ららぽーと湘南平塚の中にカルチャーセンターの施設ができて、私がその㈱カルチャーの講師を引き受けた際、新型コロナウィルスへの対応が早かったので、今まで私が運営していた教室を全てこちらの各講座に配置いたしました。

私は、平塚ゆかりの書家である田中真洲先生が会長を務められた会で、二十代のころに師範を取得させていただいてから、実用書道や横浜の会、文部科学省後援書写技能検定、書道大学などで資格を取得しました。その後結婚式場での筆耕という経験もでき、野口白汀先生による羊毛筆の線筆、墨色やにじみの勉強、またそちらの本での資格も取得しましたが、もっと良い本で勉強したいと考えていました。その際に学校の教科書や、文部科学省検定の担当の先生方の文字が目に入って月刊「書写書道」に巡り会い、また一から練習を始めています。「書写書道」は、今までいろいろな月刊誌で学んだ中でも、理論や八段までの課題など、非常に勉強になっています。

そのほかに、現在はブログの題字や毎月の言葉の依頼などで「楽しむ書」も皆様にお伝えしています。生徒の皆さんは、ＪＡや労働金庫の書初めコンクール、文部科学省後援書写技能検定、日本武道館書初めへの参加等、さまざまなことに取り組んでいます。私の次に講師になられる候補の方も出てこられて何より嬉しい限りです。

これからも基本や実用書などを楽しみながら、日々の教室での練習を大切にしていこうと思います。

平塚教室　清田　小弓

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。

日本武道館のホームページ上でも紹介されています。https:／／www.nipponbudokan.or.jp

書道をいつまでも続けたい

静岡県浜松市立舞阪小学校三年　鈴木　恭子

母からやってみないかとすすめられて、わたしは書道を始めました。自分でも楽しそうだと思って、むぎ書道教室に通い始め、入塾した時は上手に文字が書けるか心配でしたが、先生が優しく教えてくれて、今は始めたころよりもすごく文字が上手に書けるようになりました。そして、どんどん文字を書くことが好きになりました。何より、小学校の国語の時間にノートを書くことが、すごく楽しく感じるようになりました。

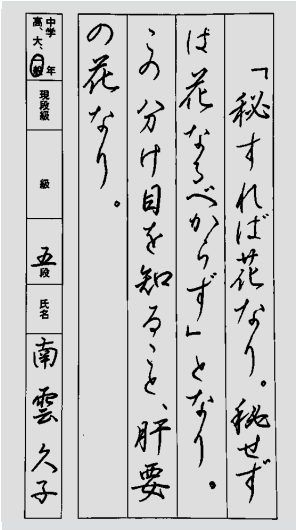
書道を習っていて、一番うれしかったことは、小学校でおこなわれた児童生徒書写作品コンクールで優秀賞をとったことです。その時は「日」という字を書きました。初めて大きな賞をもらえてびっくりしました。学校でみんなの前で表彰されて、ドキドキしました。そして家族に褒められたことが、とてもうれしい思い出です。

書道の難しいところは、いろいろな文字を書く中で、それぞれ気をつけるところが違うので、それを意識して書かなければいけないところです。少し大変ですが、上手に文字を書けるように、どうしたらうまく書けるのかを考えるようになりました。

わたしはこれからも書道を続けたいと思っています。文字を書くことがすごく好きになったからです。最近、どうして母がわたしに書道をすすめたかを聞くと、集中力や落ち着きがでるようにしたかったそうです。これからも母の気持ちに応えられるように、書道をがんばります。

昨年からは、小学一年生の妹といっしょに書道教室に通っていて、二人で多くの賞をとることを目標にがんばっています。そして、いつまでも長く書道を続けたいと思います。

私と書写書道　第262回



動機　そして今は

千葉県九十九里町　南雲　久子

私の書写書道との出会いは、学生からの言葉がきっかけでした。職場ではパソコンが主流でしたが、手書きで書く場面が多くあり、日々の実習記録にボールペンで助言を書いて返却していました。その際、学生から「何と書いてあるか分からない」と率直に言われたことがありました。また、小学生の時も、父に百点の答案用紙を見せた時に「よくできた。でも、分かる字を書いてね」と言われたり、妹と文字の練習をしたものの長続きしなかったことを思い出しました。「速く、誰が見ても読みやすく書きたい」。この気持ちで、書写書道教室に通い始めました。

教室では、漢字やかな文字を初歩から指導を受け学びました。一人では続けられないのではないかと思っていましたが、小・中学生の生徒たちが元気よく、真剣に取り組む姿勢や先生の励ましのお陰で今も続けるに至っています。

書体や古典の名跡は山ほどあり、手書きの文字の美しさに驚きます。月刊「書写書道」は大切な情報源で、わくわくしながらページを開きます。楽しく書きたいのですが、苦戦することも珍しくありません。

とはいえ、毛筆・硬筆の練習を重ねる中で、気持ちの切り替えができ、生活にもリズムが生まれてきたように思います。これからも一つでも多くの古典に親しみ、臨書学習を続けたいです。

学びの場ですてきな先生や仲間の皆さんに出会えたことを感謝し、元気に努力してまいりたいと思います。五年生の孫とともに書を学ぶ日を夢見て取り組んでいます。